



# 廿日市市教委だより

令和3年  
3月15日  
第11号

～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～



今年度も残すところ、あと数日となりました。今年度は、年度当初に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、長期の臨時休業を余儀なくされ、児童・生徒だけでなく先生方も大変不安な中でのスタートだったと思います。そんな中でも、「子ども達の学びを止めない！」という思いで、様々な工夫をしながら教育活動を行ってくださり本当にありがとうございました。次年度も、充実した教育活動が行っていただけるよう、ともに頑張っ



## 「いじめ問題対策連絡協議会」の実施

令和3年2月26日（金）に、「いじめ問題対策連絡協議会」が市長主催で実施されました。

会の冒頭では、大切なお子様を亡くされたご遺族の方よりいじめ防止への思いを語っていただく機会がありました。いじめ相談窓口の在り方や、毎年5月8日に市内全小・中学校及び宮島幼稚園で行っている『命の大切さについて考える日』の内容等の更なる充実に向けての提言等、貴重なご示唆をいただくことができました。また、松本市長より、『いじめで子どもたちが苦しむことのない はつかいち、学校だけでなく大人が全員で子どもたちを見守り、支え合う はつかいち』のまちづくりに向けて理解と協力を求めるメッセージが発表されました。その後、市長メッセージを受けて、各委員より、各所属機関でこれから取り組んでいくことについての発表及び協議が行われました。



メッセージを発表する松本市長



協議の様子

いじめ撲滅のためには、学校の取組に加え保護者・地域の力が必要であることは、ご遺族のお話及び市長メッセージの中で共通して強調されていました。来年度の会では、各所属機関の取組に対する成果や課題の検証や、更なる改善に向けた協議が予定されています。子どもたちがいじめで苦しむことのないよう、地域みんなで子どもを見守るとともに、社会全体でいじめをなくしていくために、今後も学校と教育委員会、各機関が密なる連携のもと、いじめの防止に向けた取組を一層充実していきたいと思

## 学級経営研修

令和3年2月10日（水）、今年度は、オンライン形式で小・中学校合同の、「学級経営研修」を実施しました。学級経営は、「学級づくり」「授業づくり」を推進していく基盤です。その基盤づくりに必要な視点や手立てについて学びました。

学級経営の「正解」ではなく「絶対」をつくる

阿品台中学校 聖川 裕太先生

- ・ **目指す生徒・学級に求めるもの**  
**「自立」**：進路選択・進路決定に向けた自立心。**「自律」**：自分で考え自分をコントロールする力。
- ・ **「学級開き」**では、**所信表明 3つのキーワード**をもとに、明確に**「何が良くて、何が悪いか」という基準**を示す
  - ①必ずやらなければならないこと・・・まずはここから実態を把握する
  - ②1年を通してできるようになってほしいこと・・・現状からの足し算で肯定的評価をする
  - ③絶対にしてはいけないこと・・・年間を通してここだけは絶対に譲らない
- ・ **「重点3箇条」のキーワード** → ①時を守り ②場を清め ③礼を正す

（感想：一部抜粋）

- ・自分の中でブレない芯の強さ・思いがあるかどうかによりよい学級づくりには何より大切なのだと学びました。
- ・学級目標について具体的な実践行動目標を立てることを来年度実践してみたいと思いました。



阿品台東小学校 我田 博美先生

- ・ **学校行事や異学年交流**を通して**「学級活動」が充実すれば、学級経営も充実**する
- ・学級会のマニュアルをもとに、**全校で統一した「学級会のすすめかた」**を指導
- ・学級活動：**話し合いの流れ**・・・出し合う→比べ合う→まとめる（決める）
- ・**「折り合い」の付け方**・・・
  - ①合体の術
  - ②つけたしの術
  - ③時間を短くしてどっちもやっちゃうの術
  - ④優先順位をつけてやるの術

【自己有用感を育む3つのキーワード】

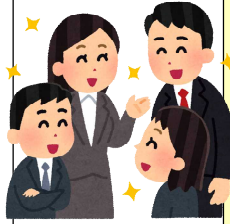
- ①人とかかわる時間を意図的につくること
- ②がんばりを認め合う場の工夫をすること
- ③信じて任せて励ましながらやりきらせること

（感想：一部抜粋）

- ・活動そのものに重点をおいてしまいがちだが、計画の段階が最も大切であるということが分かりました。
- ・繋がりを大切にしながら自分たちのクラスは自分たちの力でよくしていくための様々な手立てや方法を学ぶことができました。

## 令和2年度廿日市市小中一貫教育連絡協議会

令和3年2月26日(金)に、小中一貫教育連絡協議会を実施しました。研修前半では、今年度の小中一貫教育推進事業の成果と課題を共有し、各中学校区の実践や取組事例を交流しました。後半では、今年度の成果と課題をふまえ、中学校区の強みや弱み等の実態を明らかにし、次年度に向けた小中9年間を通じた取組について協議しました。



### 成果の声

- ・「9年間で育てる児童生徒の具体的な姿」を作成することで、中学校区で共通した表現力育成を意識することができた。
- ・発達段階や授業のねらいに沿った振り返りの視点を示したり、「振り返りの手引き」を活用したりすることで、振り返りの質を高めることができた。
- ・掃除の指導において、小中共通の掲示物を作成して各校に掲示したことにより、小中で共通した掃除の取組を行うことができた。

廿日市市がめざす小中一貫教育は、「行うこと自体」が目的ではなく、「その地域の児童生徒を9年間でより良く育てること」が目的です。



## 気軽に相談できる「教育相談日」

家庭のことや学校生活のこと等、様々な悩みを抱えながら生活している子どももいます。学校では、そんな悩みを耳を傾け、心に寄り添うために、日頃から子ども達とコミュニケーションを図りながら、行動観察や日記、いじめアンケート等、多面的な見取りをしています。その中の1つに「校内教育相談日」があります。

校内を見渡すと、どの学校にも、教室をはじめ、目に付くところへ相談日や担当の先生の名前が書いた掲示があることと思います。

今回、紹介する廿日市小学校の「廿小こころの相談日」もその1つです。タイトルにも書いている通り、子ども達が何度も相談に来たり、新

### つながれ! 広がれ! 「宝の山」

たに相談に来たりする、まさに「みんなが気軽に相談できる相談日」になっています。

毎週水曜日になると、放送委員会の子どもが全校児童へ「今日は廿小こころの相談日です。悩みがある人は相談室に相談に行きましょう。」と放送で呼びかけます。相談室では、生徒指導主事の向井千代子先生が、悩みを抱えた子ども達を出迎えてくれます。先生は相談に来た子ども達の話の聞くとき、次の3つのことを語りかけるそうです。

- ①よく来たね。
- ②今からどうしていきたい? 先生にできることがあればお手伝いするよ。
- ③何かあったら必ずおいでね。

他の先生方も放送を聞いて、クラスの子ども達に呼びかけたり、前もって担任と向井先生が連携して一緒に悩みを聞いたりするなど学校全体で子ども達の心に寄り添う体制づくりができています。

「スッキリした!」「困ったらまた来ます!」と悩みを聞いてもらった子ども達が笑顔になれる相談日。また1つ宝物を見つけました。

## 特別支援教育の視点に基づいた学習指導と生徒指導

学級の中には、読み書きに時間がかかったり、友達とのコミュニケーションが上手く取れずトラブルを起こしたりするなど、障害があることによって学習面や生活面で困難さを感じている子ども達がいるのではないのでしょうか。

そんな子ども達の困難さを改善・克服するために、大切なことはまず「子どものことを知る」ことです。

困難さの要因は何だろう?

例えば学習障害の子どもに必要な指導として…

《文字を正確に書くことが苦手な場合》

適切な文字を思い出すことができないのか、細かい部分を書き間違えるのか、同じ音の漢字や形が似ているアルファベットと間違えるのかなど、そのつまずきのパターンを把握した上で、漢字の成り立ち等の付加的な情報を指導し、意味付けを行うことや文章や文字をなぞって書くことなどの指導方法を組み合わせる。

【文部科学省 教育支援資料より】

本人の得意なものからアプローチし、「自分ではできないんだ。」ではなく「~すればできた!」と子ども達の自信や意欲につながる指導を心がけていきましょう!

## ICT 活用への道

各研修でオンラインを活用したところ…



1月下旬から3月上旬の間に、廿日市市教育委員会主催のものをはじめ、先生方が参加する各機関の研修がZOOMやG Suite for Educationを利用して行われました。「音声小さく、ボリュームをあげるには…」 「テレビ会議中、自分のマイクをONにしたりOFFにしたりするには…」とパソコンの操作方法に少し手間取られる場面もありましたが、大きな混乱もなく各研修が行われていたように思います。

テレビ会議を経験された先生が、一人、また一人と増え、着々とスキルを上げています。令和3年度に向けて、まだ体験されていない先生方のために、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としてではなく、積極的にオンライン研修を行っていきたく思います。

これまでの記事でも取り上げましたが、目指すのは、「子供たちが主体的に学ぶ姿」です。その一つの手段としてICTの活用は有効です。そのために、先生方のスキルを上げていくことができる場を作り続けていきます。